

問題

問

1

正解

完璧



直前
CHECK

重要性や需要変動，在庫コストの観点から商品単位に定量発注法，定期発注法，2ピン発注法のいずれの方法にするかを決定したい。発注方式を決定するために用いる手法として，適切なものはどれか。

- ア ABC分析
- イ 管理図
- ウ クリティカルパスメソッド
- エ 線形計画法

問

2

正解

完璧



直前
CHECK

ITIL v2における“ユーザ”又は“顧客”の説明のうち，適切なものはどれか。

- ア IT運用の費用を負担する責任者は“ユーザ”である。
- イ ITサービスに対するサービス要求を決定する者は“ユーザ”である。
- ウ ITサービスを日々利用する者は“ユーザ”である。
- エ サービスデスクを主な窓口として利用する者は“顧客”である。



問1

ア

ABC分析とは、売上高等の高い順に商品を並べて三つのグループ（A，B，C）に分け、グループごと取るべき戦略や取組を変えて、資源を有効利用する考え方である。たとえば、「Aグループは売れ筋商品であるから重点的に管理を行い、資源を優先的に投下する」などである。

定量発注法：在庫数が一定量より少なくなった場合、あらかじめ決めておいた量を発注する発注法。

定期発注法：発注間隔を一定にして発注する方式。発注時の在庫や需要予測によって発注量に変化が生じる。

2ピン発注法：ダブルピン発注法と呼ぶ。二つの在庫管理用の箱に同量の在庫を用意し、一つの箱から在庫を取り出して、空になったら一箱分の在庫を発注する。

管理図：時系列で発生するデータのばらつきを折れ線グラフで表し、上限と下限を設定して異常値の発見に用いる。在庫管理とは関連していない。

クリティカルパスメソッド：プロジェクト管理の中で、最短の作業工程を管理する手法である。余裕日程が0の工程を管理することで、作業全体の日程を管理することができる。

線形計画法：限られた資源を最適に配分し、得られる結果を最大化する手法。制約条件はいくつかの一次式や一次不等式で表される。



問2

ウ

ITILにはv2とv3の二つのバージョンがあり、本問はv2に関する問題である。

ITIL（IT Infrastructure Library）はシステム管理・運用規則に関するフレームワークである。ITサービスは従来の運用管理および保守管理のことで、そのサービスマネジメントはサービスサポートとサービスデリバリの二つに分類されている。

サービスデリバリ：サービスレベル管理、キャパシティ管理、可用性管理、ITサービス財務管理、ITサービス継続性管理

サービスサポート：サービスデスク、インシデント管理、問題管理、構成管理、変更管理、リリース管理

ユーザ：ITサービスを日々利用する者。

顧客：IT運用の費用を負担する責任者。ITサービスから見る場合は、顧客という形で考えるほうが良い。通常、顧客というとサービスを利用する者をイメージするが、ITILでは異なっていることを覚えておく必要がある。

問題

問 3

正解

完璧

直前
CHECK

システムの改善に向けて提出された4案について、評価項目を設定して採点した。効果及びリスクについては5段階評価とし、それぞれの評価項目ごとの重要度に応じた重み付けを行った上で次の式で総合評価点を算出したとき、総合評価点が最も高い改善案はどれか。

$$\text{総合評価点} = \text{効果の評価} - \text{リスクの評価}$$

各システム改善案の採点結果

評価項目 \ 案		案1	案2	案3	案4
		案1	案2	案3	案4
効果	セキュリティ強化	3	4	5	2
	システム運用品質向上	2	4	2	5
	作業コスト削減	5	4	2	4
リスク	スケジュールリスク	2	4	1	5
	技術リスク	4	1	5	1

各評価項目の重み付け

評価項目		重み
効果	セキュリティ強化	4
	システム運用品質向上	2
	作業コスト削減	3
リスク	スケジュールリスク	8
	技術リスク	3

ア 案1 イ 案2 ウ 案3 エ 案4

問 4

正解

完璧

直前
CHECK

エージェント機能を利用した運用監視の例はどれか。

- ア WWWサーバやFTPサーバなどのサーバが正常に稼働しているかどうかを調べるために、実際にそのサービスを利用して確認する。
- イ 監視対象機器内の監視プログラムがリソースの使用状況を監視し、しきい値を超えたら監視サーバに通知する。
- ウ 監視対象機器に対して監視サーバから定期的にpingコマンドを発行し、機器の死活を監視する。
- エ メールサーバ上にウイルス対策ソフトを配置し、PCへのウイルス感染を防ぐ。

**問3****ウ**

問題に指定された重み付けを利用して総合評価点を計算する。計算式は次の通り。

各システムの改善案の採点結果×各評価項目の重み付け＝各項目の評価点

$$\text{案1} : (3 \times 4 + 2 \times 2 + 5 \times 3) - (2 \times 8 + 4 \times 3) = 3$$

$$\text{案2} : (4 \times 4 + 4 \times 2 + 4 \times 3) - (4 \times 8 + 1 \times 3) = 1$$

$$\text{案3} : (5 \times 4 + 2 \times 2 + 2 \times 3) - (1 \times 8 + 5 \times 3) = 7$$

$$\text{案4} : (2 \times 4 + 5 \times 2 + 4 \times 3) - (5 \times 8 + 1 \times 3) = -13$$

総合評価点が最も高い改善策は、案3の7となる。

**問4****イ**

エージェント機能を利用した監視とは、一般的にOS上にソフトウェアとしてインストールし、そのソフトウェアがOS内のリソースやログを監視することである。エージェントソフトは、閾値を超えた場合や特定のログメッセージが出力された場合にマネージャ（エージェントの親となる監視サーバ）へ通報する。利用者へのメール通報等はマネージャが実施する。

ア：サービス監視の意味である。

ウ：pingによる死活監視に関する記述である。外部の監視サーバからの監視である。

エ：検疫に関する記述である。これはセキュリティ監視の一つである。

問題

問 5

正解

完璧

直前
CHECK

ITサービスマネジメントのインシデント管理の達成目標はどれか。

- ア インフラストラクチャの弱点を探り、それらの弱点を取り除くための提案を行ってインシデントを予防する。
- イ 過去のインシデントの根本原因を見つけ、改善や是正に関する提案を行い、インシデントを未然に防ぐ。
- ウ 顧客が要求するITサービスを、継続して維持し、改善していくようにする。
- エ 組織やユーザのビジネス活動に対するインパクトを最小限に抑えるために、できるだけ早くSLAで定めた通常のサービスレベルに復帰させる。

問 6

正解

完璧

直前
CHECK

ITILにおけるバーチャルサービスデスクはどれか。

- ア サービスデスク機能を実現するために、専門の業者にアウトソーシングする。
- イ サービスデスクは各地に存在するが、ユーザからはサービスデスク機能があたかも1か所にあるかのように見える。
- ウ 地域ごとにサービスデスクを設置し、各地域のビジネスニーズに対応したサービスデスク機能を提供する。
- エ 複数のユーザサイトに対するサービスデスク機能を1か所に設置したサービスデスクで提供する。

問 7

正解

完璧

直前
CHECK

ITサービスマネジメントのプロセスの一つである構成管理を導入することによって得られるメリットはどれか。

- ア IT資産の情報を正確に把握することによって、ほかのプロセスの確実な実施を支援できる。
- イ ITリソースに対する、現在の需要の把握と将来の需要の予測ができる。
- ウ 緊急事態時でも最低限のITサービス基盤を提供することによって、事業の継続が可能になる。
- エ 適正なコストで常に一定した品質でのITサービスが提供されるようになる。

**問5****工**

インシデント管理はITIL (IT Infrastructure Library) サービスサポートの中の一つのプロセスである。

インシデントとは、組織やユーザの活動に対する影響のことである。インシデント管理は、インシデントをできる限り早く復旧することを目的としている。

ア、イ、ウ：問題管理の説明である。問題管理は、繰り返されるインシデントを発生させないようにするための活動（リアクティブな対応）と、インシデントそのものを予防する活動（プロアクティブな対応）を実施するプロセスである。

**問6****イ**

サービスデスクはITIL (IT Infrastructure Library) のサービスサポートの機能の一つであり、ユーザの窓口を行うものである。

ITILにおけるサービスデスクには3つの考え方、バーチャルサービスデスク、セントラルサービスデスク、ローカルサービスデスクがある。

ア：アウトソーシングすることはサービスデスクを実施する手段として用いられる場合もあるが、バーチャルサービスデスクの考え方とは関連しない。

イ：バーチャルサービスデスクの説明である。

ウ：ローカルサービスデスクの説明である。

エ：セントラルサービスデスクの説明である。

**問7****ア**

ITIL (IT Infrastructure Library) における構成管理とは、IT資産の情報を正確に把握し、インシデント管理や問題管理、リリース管理といった他のプロセスに確実な情報を提供することを主な目的とする。

IT資産の情報とは、マニュアルやOSの設定情報、サーバ等の物理的な資産の情報といった、ITに関する構成要素を全てが該当する。たとえば、スイッチングハブの接続情報が構成管理として正確に管理されていなければ、どのサーバとつながっているかわからず、スイッチングハブの故障発生時にどのサーバが停止するかわからないといった問題が起こる。

問題

問 8

正解

完璧



直前
CHECK

災害によるITサービス停止が、ビジネスへどれだけの影響を及ぼすかを分析するビジネスインパクト分析は、どのプロセスで実施するか。

- ア ITサービス継続性管理
- イ インシデント管理
- ウ 可用性管理
- エ 問題管理

問 9

正解

完璧



直前
CHECK

複数のサーバへのアクセスに用いられる、シングルサインオンに関する記述のうち、適切なものはどれか。

- ア 安全性を高めるために、利用者認証には使い捨てパスワード（ワンタイムパスワード）方式の採用が前提になる。
- イ 公開鍵暗号方式を用いるので、認証局への利用者登録が必要となる。
- ウ ディレクトリサービスを用いることで、複数サーバのIDとパスワードを統一して管理できる。
- エ 利用者によるパスワードの管理が容易になり、パスワード漏えい時のリスクが減少する。

**問8****ア**

ITIL (IT Infrastructure Library) の災害対策を分析する機能は、ITサービス継続性管理である。ITサービス継続性管理は、サービスデリバリーに詳細が記載されている。

ITサービス継続性管理は、システム障害等によって事業そのものを継続できなくなる状態を避けるために実施するプロセスである。たとえば、地震で事業用のサーバがすべて故障して会社の全業務が停止しても復旧する手段をあらかじめ考えておくということである。

インシデント管理：日常的なハードウェア障害やソフトウェア不良による障害に対して、業務処理が正常に遂行できるまでに復旧させること。

可用性管理：ビジネス活動に必要なシステムを必要ときに利用可能であるように保証すること。

問題管理：未知の問題が発生したときに、その問題を回避するための方策を立案すること。

**問9****ウ**

シングルサインオン (SSO: Single Sign-On) とは、ユーザが一度認証を受けるだけで、許可されているすべての機能を利用できるようになる機能のことである。認証対象ごとにIDとパスワードを入力する手間を省くことができ、ユーザが記憶しておく必要のあるIDおよびパスワードの数を減らすこともできる。

ア：ワンタイムパスワードでは複数のシステムへ透過的にアクセスすることはできないため、シングルサインオンでは利用されない。

イ：認証局へ登録するものはサーバ側の証明書である。利用者登録は必要ない。

ウ：シングルサインオンの説明である。

エ：パスワードが一つになるため管理が容易になるが、パスワード漏洩時は一つのパスワードですべてのシステムへ入ることができるため、リスクは増加する。

問題

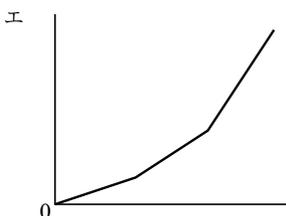
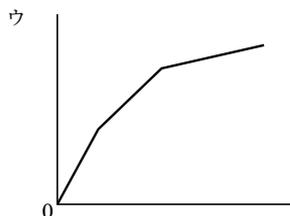
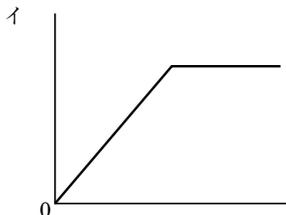
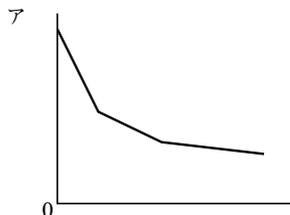
問 10

正解

完璧

直前
CHECK

コンピュータシステムの利用料金を通減課金方式にしたときのグラフはどれか。ここで、横軸を使用量、縦軸を利用料金とする。



問 11

正解

完璧

直前
CHECK

様式が複数ある伝票から、様式ごとに定められた項目のデータを入力する。入力漏れがないことを確認するためにプログラムで実行する処理として、適切なものはどれか。

- ア 伝票の様式ごとに定められた項目数と入力された項目数が一致することを確認する。
- イ 伝票の様式に基づいて、入力された項目の値のデータ形式を検査する。
- ウ 入力された項目の内容が、伝票で定義された範囲に収まっていることを確認する。
- エ マスタファイルと突き合わせて、入力された項目の内容が正しいことを確認する。

**問10****ウ**

ていげん
逓減課金方式とは、使用量が増えるに従って課金の単価を下げる方式である。グラフの傾きが徐々に穏やかになっていく選択肢ウのグラフがこれにあたる。

**問11****ア**

入力漏れを確認する手段は、伝票の様式ごとに決まっている項目数と入力された項目数を比較することである。たとえば、入力すべき項目数が100個あったとすると、入力後の項目数が99個であった場合は、どこか1個のデータを入力ミスしていることがわかる。

イ：データ形式を確認することはできるが、入力漏れを確認することはできない。

ウ：入力値を確認することはできるが、入力漏れを確認することはできない。

エ：データの内容は変化するため、マスタファイルとの突合せではデータの内容を確認することはできない。

問題

問 12

正解

完璧



直前
CHECK

ウォームスタンバイの説明はどれか。

- ア 同じようなシステムを運用する外部の企業や組織と協定を結び、緊急時には互いのシステムを貸し借りして、サービスを回復する。
- イ 緊急時にバックアップシステムを持ち込んでシステムを再開し、サービスを回復する。
- ウ 別の場所に常にデータの同期が取れているバックアップシステムを用意し、緊急時にバックアップシステムに切り換えてサービスを回復する。
- エ 別の場所にバックアップシステムを用意し、緊急時にバックアップシステムを起動してデータを最新状態にした後にサービスを回復する。

問 13

正解

完璧



直前
CHECK

ITサービスマネジメントの構築に当たり、現状の業務のやり方とITILなどのベストプラクティスとを照合し、課題を明確にするために実施するものはどれか。

- | | |
|--------------|-------------|
| ア ギャップ分析 | イ サービスレベル管理 |
| ウ マネジメントレビュー | エ リスクアセスメント |



問 12

工

ウォームスタンバイは障害対策の一つの手法である。本番系のシステム障害に備えて別の場所にバックアップシステムを用意し、障害発生時にバックアップシステムに最新のデータを投入してサービスを復旧する方式である。

ウォームスタンバイ以外にも障害対応方式として、ホットスタンバイ、コールドスタンバイがある。障害対策として短時間で対応が可能な順は、ホットスタンバイ>ウォームスタンバイ>コールドスタンバイである。

ホットスタンバイ：同じ構成のシステムを2系統用意しておき、片方（主系・本番系）を稼働させ、もう片方（待機系・予備系）は同じ処理を行いながら待機状態にしておく。待機系は主系と常に同じ状態を保っておき、主系に障害が発生すると即座に待機系に処理が引き継がれる。

コールドスタンバイ：コンピュータを2台用意して、本番系が故障したときに待機系を立ち上げて処理を切り替える方式である。



問 13

ア

現状とベストプラクティスの照合という観点で、ギャップ（差異）分析を行う。

サービスレベル管理：ITIL（IT Infrastructure Library）のサービスデリバリーで提唱されている。ITサービスの中で合意されたサービスの品質が守られていることや、サービス品質を守るための事項について管理するプロセスである。

マネジメントレビュー：ISMSやISO等で品質管理の方針や目標が効果的に運営されていることを定期的に経営者が見直すことである。

リスクアセスメント：リスク管理の中でリスクを分析してその内容や頻度を特定し、リスク因子とその評価を行うことである。リスクアセスメント後の対応として、そのリスクを回避することや提言する対応を取る。

問 14

正解

完璧

直前
CHECK

ITサービスマネジメントにおけるリスクの対応策の具体例のうち、適切なものはどれか。

- ア リスクを回避するために、設備に保険をかける。
- イ リスクを軽減するために、指紋認証を採用する。
- ウ リスクを受容するために、新たにバックアップシステムを構築する。
- エ リスクを転嫁するために、バックアップシステムを遠隔地に移転する。

問 15

正解

完璧

直前
CHECK

空調設備の送風方式の一つである床下空調方式の特徴として、最も適切なものはどれか。

- ア 機器の配置に合わせてダクトを設置する。
- イ 送風の流れと暖気の上昇の流れが同じ方向であり、効率よく冷却できる。
- ウ 適切にダクトを設置することによって、温度分布を均一化できる。
- エ 取付けが簡単で工事費用が安いので、小型機用によく使われる。

**問 14****イ**

リスク対応策には、主に**リスク受容**、**保有**、**低減**、**移転**、**回避**がある。

リスク受容：リスクアセスメントにおいて、リスクとして受容（許容）できると判断したもの。

リスク保有：リスク受容可能であり、リスク対策を実施しなくても良いと判断したもの。

リスク低減：リスクを低減する対応を取る必要があると判断したもの。

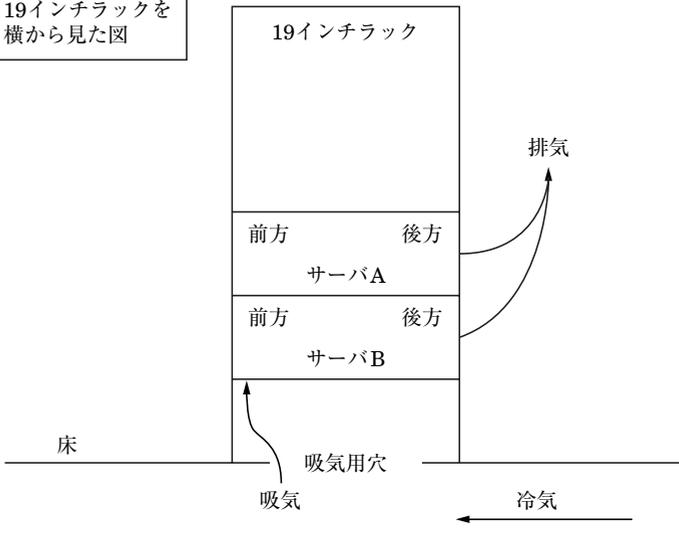
リスク移転：リスク低減が困難で、外部への委託等によってリスクを移転する必要があると判断したもの。

リスク回避：リスクそのものが大きく、これを保有することで大きな影響が発生すると考えられる場合に、リスクそのものをなくす対応を取る必要があると判断したもの。
リスク低減では対応コストが高く、非効率である場合にリスク回避を検討する。

**問 15****イ**

床下空調方式はデータセンタで一般的に利用されている方式である。各種サーバは、前面から吸気して後方に排気するよう作られている。19インチラック等を設置してサーバを搭載した場合には、床下からサーバ前面にかけて冷風を流し、後方から上空に排気する配置を行うのが効率的である。

19インチラックを横から見た図



問題

問 16

正解

完璧

直前
CHECK

雷サージによって通信回線に誘起された異常電圧から通信機器を防護するための装置はどれか。

- ア IDF (Intermediate Distributing Frame)
- イ MCCB (Molded Case Circuit Breaker)
- ウ アレスタ
- エ 避雷針

問 17

正解

完璧

直前
CHECK

“システム監査基準”の前文に記述されている基準の利用の目的として、適切なものはどれか。

- ア システム監査業務の品質を確保し、有効かつ効率的に監査を実施することを目的とした監査人の行為規範である。
- イ システム監査人が監査上の判断の尺度として用いる基準であって、情報セキュリティ監査基準と一体となって機能する基準である。
- ウ 情報システムに保証を付与することを目的とした監査でなく、改善のための助言を行うことを目的とした監査に利用する基準である。
- エ 組織体の外部者に監査を依頼するシステム監査でなく、組織体の内部監査部門などが実施するシステム監査に利用する基準である。

問 18

正解

完璧

直前
CHECK

プロジェクトの工程管理や進捗管理に使用されるガントチャートの特徴はどれか。

- ア 各作業の開始時点と終了時点が一目で把握できる。
- イ 各作業の前後関係が明確になり、クリティカルパスが把握できる。
- ウ 各作業の余裕日数が容易に把握できる。
- エ 各作業を要素に分解することによって、管理がしやすくなる。

**問 16****ウ**

雷サージ（落雷による過電圧）による通信機器への影響防止には、アRESTA（避雷器）を利用する。アRESTAは、一定以上の過電圧を吸収する機器である。同様の機器に、サージプロテクタというものもある。

IDF：ビル構内のネットワークや電話を集中して管理する中間分線盤。雷サージとは無関係である。

MDF：IDFと同様に、ネットワークや電話回線を集中して管理する分線盤。主に外部からの引き込み線を接続するためのものである。

避雷針：ビルなどの高層建築物への落雷をアースする（地下に流す）もの。サージの防護とは無関係である。

**問 17****ア**

システム監査基準は、経済産業省のホームページからダウンロードできる。本問はシステム監査基準をダウンロードして内容を読むことで理解することが可能である。

選択肢アの記述は、システム監査基準の前文に同一の文が記載されている。

**問 18****ア**

ガントチャート：工程管理に用いられる帯状のグラフ。縦軸に工程，横軸に日程を取り，作業開始や終了，予定，実績を記入する。ガントチャートにより，他の業務との関連を確認することが容易となる。

ガントチャートでは最短経路は記載されていないため，クリティカルパスの把握は難しい。プロジェクト管理ツールを利用する場合であればガントチャートとクリティカルパスの両方を記載するものもあるが，本問ではツールを利用するといった指定がないため，紙でガントチャートを作成した場合も考えられる。したがって，クリティカルパスや最短日数，余裕日数分析には向かない。

問題

問 19

正解

完璧

直前
CHECK

顧客に対して自社製品のプレゼンテーションを行うことになった。このとき、同業他社における複数の導入成功事例を挙げ、この製品を導入することで大きな効果が期待できることを訴求したい。このプレゼンテーションで使用するストーリー構成法として適切なものはどれか。

- ア 演繹的構成法 イ 帰納的構成法
ウ 重点順位構成法 エ 難易構成法

問 20

正解

完璧

直前
CHECK

シリアルATAの説明として、適切なものはどれか。

- ア PCと周辺機器とを結ぶシリアルインタフェースであり、キーボード、マウス、スピーカ、プリンタ、CD-RWドライブなど多岐にわたる周辺機器を接続する。
イ PCと周辺機器とを結ぶシリアルインタフェースであり、磁気ディスク装置、DVDドライブなどの高速な周辺機器を接続する。
ウ PCと通信機器とを結ぶシリアルインタフェースであり、ルータ又はモデムを接続する。
エ PCとデジタルAV機器とを結ぶシリアルインタフェースであり、セットトップボックス、DVDプレーヤなどを接続する。

問 21

正解

完璧

直前
CHECK

1台のCPUの性能を1とするとき、そのCPUを n 台用いたマルチプロセッサの性能 P が、

$$P = \frac{n}{1 + (n-1)a}$$

で表されるとする。ここで、 a はオーバーヘッドを表す定数である。例えば、 $a=0.1$ 、 $n=4$ とすると、 $P \approx 3$ なので、4台のCPUからなるマルチプロセッサの性能は約3になる。この式で表されるマルチプロセッサの性能には上限があり、 n を幾ら大きくしてもある値以上には大きくならない。 $a=0.1$ の場合、その値は幾らか。

- ア 5 イ 10 ウ 15 エ 20



問 19

イ

演繹的順序法：「大前提」「小前提」「結論」による三段論法で展開する，論理的な文章の構成方法．演繹は，複数の前提から結論を導く推論である．演繹推論の一つである三段論法は，以下の形式をもつ．大前提「すべての人間は死ぬ」，小前提「ソクラテスは人間である」，結論「ゆえにソクラテスは死ぬ」．演繹推論の結論は，トップダウンアプローチである．

帰納的推論：現実の事例を調べ，そこから結論や規則性を推論するボトムアップアプローチである．同業他社で成功しているから，導入効果が大きいという判断が可能であると考えられる方式となる．



問 20

イ

シリアルATA (SATA : Serial Advanced Technology Attachment) は，PCと周辺機器 (CD-RW, DVDドライブ, HDD等) を接続するためのインタフェースである．

ア：キーボードやマウスはUSBを利用して接続する．

ウ：PCと通信機器を接続するものはLAN接続機器である．

エ：セットトップボックスは，CATVや衛星放送などの信号を一般のテレビで見ることができるように変換する装置である．



問 21

イ

本問の場合は， n を幾ら大きくしてもある値以上にならないということであるため，50, 100, 1,000, 10,000の値を n に代入して P がどの値に近づくかを計算する．

n	P
50	8.47
100	9.17
1,000	9.91
10,000	9.99

上の表より， n は10よりも多くならないことから，選択肢イの10が正解である．

問題

問 22

正解

完璧



直前
CHECK

データマイニングを説明したものはどれか。

- ア 多次元データベースを使ってデータの組合せを変え、データ間の関連性を分析すること
- イ データとメソッドを一緒にして、オブジェクトの内部構造を利用者に見えなくすること
- ウ データベースをチューニングし、データ更新を高速化すること
- エ データを、いろいろな視点や切り口から、発見型の手法や統計的手法を使って分析することで、隠れているデータ間の関連性や規則性を見つけ出すこと

問 23

正解

完璧



直前
CHECK

TCP/IP ネットワークで使用される ARP の説明として、適切なものはどれか。

- ア IP アドレスから MAC アドレスを得るためのプロトコル
- イ IP アドレスからホスト名（ドメイン名）を得るためのプロトコル
- ウ MAC アドレスから IP アドレスを得るためのプロトコル
- エ ホスト名（ドメイン名）から IP アドレスを得るためのプロトコル

問 24

正解

完璧



直前
CHECK

緊急事態を装って組織内部の人間からパスワードや機密情報を入手する不正な行為は、どれに分類されるか。

- ア ソーシャルエンジニアリング
- イ トロイの木馬
- ウ パスワードクラック
- エ 踏み台攻撃

**問22****工**

データマイニングとは、大規模なデータの蓄積に隠れている要因相互の関連性を見つけ出す手法である。さらに、発見された関連性を知識ベースとして蓄積して、新しい知識を発見していく。例えば、データウェアハウスに蓄積されているデータに基づいて顧客の行動特性を発見して、経営に役立つ情報分析を行う取組などがこれにある。

ア：OLAP（Online Analytical Processing）に関する記述である。

イ：オブジェクト指向設計におけるカプセル化に関する記述である。

**問23****ア**

ARP（Address Resolution Protocol）：TCP/IPネットワークにおいて、IPアドレスからイーサネットの物理アドレス（MACアドレス）を求めするために使用するプロトコルである。逆にMACアドレスからIPアドレスを求める場合は、RARP（Reverse ARP）を利用する。

ア：ARPの説明である。

イ：DNS（Domain Name System）の説明である。

ウ：RARPの説明である。

エ：DNSの逆引きの説明である。

**問24****ア**

ソーシャルエンジニアリングの問題である。ソーシャルエンジニアリングに対しては、悪意のある者からの電話などにより機密情報を話術たくみに聞き出されてしまわないように、個人確認を十分に行う。機密情報の管理ルールを徹底するなど、組織内の教育を十分に行う必要がある。

トロイの木馬：正体を偽って不正を働くプログラム。ギリシャ神話に登場するトロイの木馬からつけられた名前である。

パスワードクラック：パスワードを破る行為のことである。

踏み台攻撃：攻撃先のサーバに対して、直接ではなく他のサーバを経由（踏み台）して攻撃するセキュリティ攻撃の手法である。踏み台を複数経路することで攻撃元（攻撃者）が誰であるかを追跡しにくくするために利用される。



労働者派遣法に適合するものはどれか。

- ア 派遣契約の内容にかかわらず合理的な理由がある場合には、派遣先の作業指示者の判断で派遣労働者に残業を命じることができる。
- イ 派遣先の事業所に属する従業員はだれでも、派遣労働者に業務命令を行うことができる。
- ウ 労働者派遣法で認められた業務であれば、派遣先の判断で派遣労働者の業務内容を変更できる。
- エ 労働者派遣法で認められた特殊な技能を要する業務であれば、同一人の派遣を3年を超えて行うことができる。



派遣契約とは、自己の雇用する労働者を当該雇用関係のもとに、かつ他人の指揮命令を受けて当該他人のために労働に従事させること（労働者派遣事業法第2条）である。

労働者派遣法の主な内容は以下のとおりである。

指揮命令権：派遣先にある。ただし、派遣内容と一致する指揮命令である必要がある。

指揮命令は、派遣先のあらかじめ決められた責任者が行う必要がある。

業務内容：派遣契約時に特定する。業務内容を変更する場合は、派遣契約を再度やり直す必要がある。

派遣期間：原則1年、延長する場合は最大3年となる。ただし、情報処理システムの開発等、政令で定める26の業務には期間制限が無い。